

PROLOGUE

自然と共に 人の営みがある場所

クイーンズメドウ・カントリーハウスを訪ねて

みどりや戸外の気持ち良さを改めて実感する日々が続く。
環境への危機感から、エコロジカルな緑化にも注目が集まる。
これまでの人間中心の開発ではなく、
人と自然が共にあるサステイナブルな環境はいかに可能か。
そのヒントを求めて、ランドスケープデザイナーの田瀬理夫さんが
20年前に岩手県遠野で仲間たちと始めた実験的な農場
「クイーンズメドウ・カントリーハウス」を訪れた。



馬付住宅を中心にした実験的な農場「クイーンズメドウ・カントリーハウス」。パドックの背景にはカラマツの列植がそびえ、奥にカラマツ材を使った、風景になじむ馬付住宅が建つ。2006年に建築家の永田昌民さんと谷設計所が設計した。左が馬房で右がゲストルーム、2階に居住部が配される。



上/左手が本館、右奥に見えるのが馬付住宅(新館)。苗木から育て成長したオオヤマザクラの馬場をハフリンガー種の馬が通る。山間の自然と人の営みや馬が一体となる風景を育んできた 下/2000年に竣工した本館を西側から見る。設計は高木雅行さん(アルキノバ)。東から西に下る斜面に、地形に埋もれるように立つ。自然のままの植生による草原の中、満開のミツバツツジが夕暮れに浮かぶ

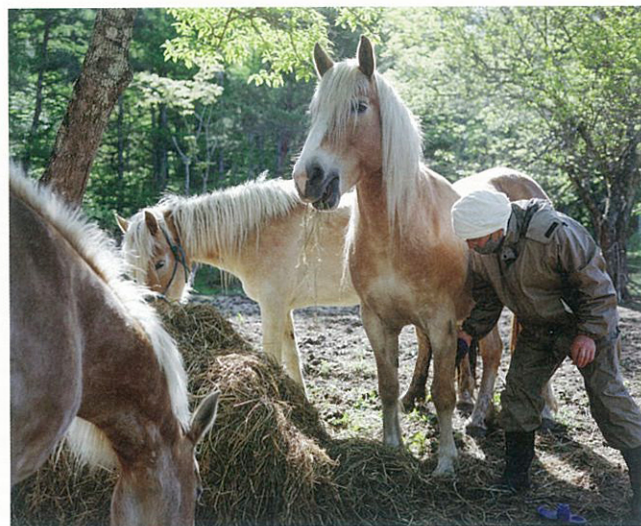


上/本館食堂。東側の窓からは、目線より上に馬が通る様子が見える。内装にはカラマツ材を拭き取り塗装して使用 下/本館の土間ラウンジ「ドマリウム」。食堂より床が800mm低く、階段でつながる。西向き開口部からは開けた斜面を見下ろし、東西で異なる風景が眺められる。家具もカラマツ材によるもの





本館の外壁には木格子が取り付けられ、自生するツルマサキなどを誘引。日差しや湿度による環境負荷を軽減している。竣工から20年経って植物に覆われ、風景の一部となっている



左/現在、ハフリンガー種の馬5頭を飼育。家畜としての農耕馬でも乗馬でもなく、人と動物が対等に生きる関係を大事にしてきた下/田植えの様子。うるち米ともち米の2反を無農薬で栽培。もみ殻から育てた苗を手植えする



生命の輝きに触れる場所

かつて、人と馬が共に暮らしていた岩手県遠野。ランドスケープデザイナーの田瀬理夫さんたちは、2000年に馬付住宅を中心とした農場「クイーンズメドウ・カントリーハウス」を開いた。あるプロジェクトを契機に、遠野を気に入った仲間の一人が移住することになり、自分たちの拠点をつくらうというのが発端だった。土地を探し、造成し、水を引くという文字通りの開拓から始まり、田畑を耕し、馬を連れてきた。遠野在住のメンバーと田瀬さんやプロデューサーの今井隆さんなど、東京から月に数回通ってくるメンバーとで歩み続け、その営みはもう20年以上になる。

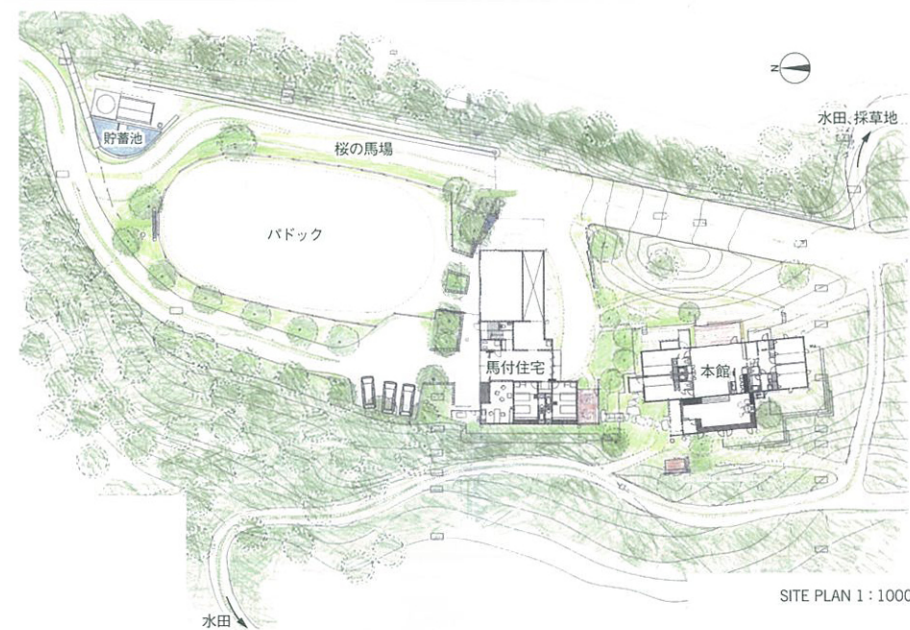
市街地から車で30分程、田園風景を縫うように進むと、人里離れた山間部への入り口にクイーンズメドウはある。地元のカラマツ材を使った馬付住宅は長い歳月によって、地に根を下ろしたように風景になじんでいる。一つ屋根の下で馬と人が同居するこの地方の伝統的な民家「南部曲り家」に習い、馬房とゲストルーム、住居を併設する建物だ。馬付住宅を通り抜けると、景色が変わって、やわらかな草木に包まれた本館が現れる。本館は土間のあるラウンジと食堂、ゲストルームで構成される、人が集まることのできるスペース。この2棟を中心に、パドック、水田、畑、放牧地を含む約3万9000㎡の敷地がクイーンズメドウである。

クイーンズメドウが何をしている場所なのか、説明するのは容易でない。農業法人として登録しているが、農業や馬の生産だけを目的としているわけではなく、ゲストルームは

あるが、宿泊施設としての営業が主体なわけでもない。自然の中に人が入り、都市の経済活動とは別のオルタナティブな暮らしを営む実験が行われている。そのための柱となるのが馬だ。

草地を歩いていると、不意にたそがれの光の中に金色のたてがみを持つ馬たちが悠々と現れて、その生き物としての存在感に息をのむ。現在、5頭いる馬たちは基本的に放し飼い。馬房はあるが、扉は開いていて、出入りは自由。馬たちは乗馬用でも農耕馬でもない。目的を持たず、ただ動物として共に生きるためにいる。「ここでは、ホースファーストなんです」とクイーンズメドウを運営する農業法人ノース代表の今井航大朗さんが話す。4年前に父の隆さんから経営を引き継いだ。ホースファーストと言うのは易く行うは難し。放牧地まで餌となる草を持っていき、そこら中に広がる馬糞を片付ける。複数の牡馬を放牧で飼育しているのは全国でも珍しいという。

「風景をつくることは思想をつくること。クイーンズメドウは緩やかに、多様なあり方を許容するようにつくっているから、色々な人を受け入れられる居場所がある」と田瀬さんは言う。馬たちに目的を負わせないから、人もただいだけで良いというメッセージになる。そこに共感して、クイーンズメドウの活動に加わる移住者も増えている。自然を相手に農作物をつくり、本能のままに生きる馬と触れ合うことで、人が感じ取るものは大きい。生命の輝きに触れる場所、その価値はこれからますます高まるに違いない。



— DATA
所在地：岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛14-122
プロデューサー：アネックス 今井隆
ディレクション・ランドスケープ設計：プランタゴ 田瀬理夫
建築設計：アルキノバ 高木雅行
N設計室 永田昌民 谷設計所 谷英樹
施工：林崎建設
運営：農業法人ノース
電話：(0198) 64-2882
主な施設構成：住宅、厩舎、宿泊施設